



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



司教区昇格の日を記念

中野司教「信者の一致こそが宣教につながる」とメッセージ

鹿兒島が使徒座知牧区から司教区に昇格した2月25日(1955年)を「教区の日」と定めての初の記念のミサが、昇格の日鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂でささげられた。



叙階、誓願宣立の節目を迎えて挨拶

午後7時から始められた「教区の日」のミサは中野司教と11人の司祭団で司式され、約70人の信徒、修道者が参列し、教区の日を記念した。ヨハネ福音書の朗読後に説教した中野司教は、ピオ11世によって65年前に司教区に昇格され、ザビエル教会が司教座教会とされたことを回想した。その上で、改めて「奄美大島における宣教再開の日(9月15日)と今日の教区の日

3月22日以降のミサに関して通達

新型コロナウイルス拡大を受けて中野司教

一向に終息の気配を見せない「新型コロナウイルス」拡大の状況にあつて、中野裕明司教は3月17日(火)、主任司祭と信徒に宛てて、政府による同ウィルス拡大終息宣言発表までの期間、それぞれ3月22日以降の主日と祭日の主要ミサの中止を決定する権限とミサにあずかる義務の免除

の通達を行った。主任司祭に宛てたものは教会法第381条(1)、信徒に対するものは同第1247条に関するもの。その上で、中野裕明司教は「すべての人が協力し合い、新型コロナウイルス感染症の終息と感染者の回復、治療薬の開発のため祈る」と訴えた。

司教の手紙

教区の皆様お元気でしようか? 2月16日(日)教区シノドス推進部会の初会合が開かれました。今回は、宣教部会の目指す事柄について、お話しします。

教皇ベネディクト16世は、回勅「神は愛」の中で、愛を表すギリシヤ語には「エロス」と「アガペー」があることを指摘し、その違いを概ね次のように説明しています。「エロス」は元来、宗教用語で、神への最高の捧げ物とその精神を指しており、一方「アガペー」は人間に向かつてどこまでも下つていく神の行為を指していると説明しています。

典礼部会が目指す事柄は、神への自己の奉獻でしたが、宣教部会には、基本的な精神として、人間に対する徹底した奉仕を目指すものと考へています。ただ、宣教という言葉は、「福音を宣べ」という意味ですが、言葉と行いで、福音を宣べ伝えることを「福音宣教」と考え、愛の実践は「福音化」という表現の内容容であると理解したいのです。つま

ダイヤモンド祝(誓願宣立60年) 平野キミ修道女(シヨファイユの幼きイエズス会) 金祝(誓願宣立50年) 櫻本サヨ子(イエスのカリタス修道女会)、安藤克子修道女、澤ヤエ子修道女(以上、レデンプトル宣教修道女会)、山之内啓子修道女、大串アヤ子修道女、松下栄子修道女(以上、純心聖母会) 記念の日を迎えた司祭、修道者の中でこの日は3人が出席し、ミサの終わりの式典で以下のように挨拶した。

サンタマリア神父「ペトロは金も銀も持っていないが、聖霊があった。同じように私も何も持っていないが、神のことは与えてもらえる。これからも祈って欲しい」

内野洋平神父(大笠利教会主任司祭)は、奄美大島地区長

鈴木康由神父(小宿教会主任司祭)は、奄美大島地区会計担当

李秉徳神父(玉里教会管区主任)は玉里教会主任

和評議会、開発援助促進評議会、移住・移動者司牧評議会、保健従事者評議会の統合

これら部署の受け皿として、日本の司教団は、中央協議会のなかに、新福音化委員会、社会司教委員会(難民移住者委員会、カリタスジャパン、正義と平和委員会、部落差別人権委員会、子どもと女性権利擁護のための評議会)

「愛(アガペー)の実践」 鹿兒島教区司教 中野裕明

安藤克子修道女「こんなに身体も小さく、足の悪い私を神は呼んでくれたことに感謝。そして私を受け入れてくれたレデンプトル宣教修道女会に感謝。私のために祈ってくださる皆様にも感謝したい」

澤ヤエ子修道女「あつという間の50年だった。皆さんの祈りと励ましのおかげだったと思う。これからもよろしくお願ひしたい」

教区人事

中野裕明司教は、学校法人大口明光学園理事長 小川靖忠神父(心のともしび運動YBU本部出身)は、学校法人善き牧者学園理事長及び玉里善き牧者幼稚園園長兼任(住居は教区本部) ※着任は4月1日

司祭の消息

お詫びと訂正 教区報3月号「成相神父訃報」の略歴で「枕崎教会」が抜けておりました。お詫びし訂正いたします。

びザビエル教会協力司祭(住居は教区本部) ※発効は4月12日

40年以上前に受洗し、教会で活躍なさっていた信者さんには懐かしい言葉だと思えます。「奄美カトリック女性連盟」とか「連合壮年会」などの組織は、この信徒使徒職に該当します。他のグループとして「レジオ・マリエ」「修道女連盟」「看護協会」などがあります。(上記一覽表参照)これらのグループの特徴は、信者の内、同じ職種でまとめたグループです。元来、カトリック・アクションと呼ばれるもので、およそ150年前から西欧で始まりました。その時代的背景としては、西欧で、共産党思想が労働者階級に広まり、信者の教会離れが進みました。その流れに抵抗するためのカトリック教会内のいわば組織固めでした。現在では鹿兒島教区が制度化している「班制度」との整合性を検証しなければならぬ時に来ています。私個人としては、信徒使徒職は、その存在理由を対社会へ向けた愛の行為として、理解すべきだと考えています。

差別主義と平等主義 (2)

紫原教会主任司祭

山口好信

2月号の末尾に、問題提起をしましたが、簡潔に提起し直したいと思います。イエスは万人を等しく罪人として見、万人を平等に救済しようとしたのではなからうか、イエスは特に人々の間に差別を設けてはいないのではありませんか、まして人類を聖なる人間と俗なる人間に分けてはいないし、教会の中に聖に属する人と俗に属する人の区別、言い換えると、他者を導く人と導かれる人の区別を設けようとはしなかったのではないかと、という問いです。

新約聖書を見ますと、フアリサイ派の人たちはイエスに「あなたは人々を分け隔てせず、神の道を教えておられます」(マルコ12・13)と認めていた。またイエスは弟子たちに向かつて、あなたたちは律法学者やフアリサイ派の人々のように「先生」とか「教師」とか呼ばれてはいない、あなたの方の師は一人、キリストだけで、あとは皆兄弟なのだ(マタイ23・8)。

放蕩息子のたとえ(ルカ15・11)は、1節でわかるように「兄」はフアリサイ派の人々や律法学者のことで、「弟」の放蕩息子は当時の徴税人や罪人のことです。「父」は弟に反省も償いも求めていません。イエスの思いを父が語っています。ぶどう園の労働者のたとえでは、主人は夕方5時頃に来た人にも早朝から働いた人にも同じく一日分の賃金を払っています(マタイ20・14)。同一賃金とは同一の救済、明日への命を誰かが等しくつなぐための食糧費と言えます。仲間を赦

さない家来のたとえで、ペトロにイエスは、7回どころか7の70倍まで赦しなさいと(マタイ18・22)。神への人間の負債は大小いろいろあるでしょうが、神から見たらほぼ同じということ。放蕩息子をそのまま赦し、夕方5時からの労働者にも一日分の賃金を与えるのと同じ態度です。だからイエスは山上の説教で「父なる神は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」と分け隔てがないのです(マタイ5・45)。

最後の審判のとき、イエスはキリストは王として登場しますが、そのとき「この最も小さい者の一人にしたことは、わたしにしてくれたことなのだ」と、小さい者・貧しい者とご自分を同一視しています(マタイ25・40)。

洗礼者ヨハネから洗礼を受けるときも、イエスは徴税人や娼婦に混じって洗礼を受けたからこそ、のちに、ヨハネの洗礼が神からのものであることを認めなかった祭司長や民の長老たちに向かつて「ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じた。あなたたちはそれを見て、後で考え直して彼を信じようとしなかった」と宗教者を批判します(マタイ21・32)。神殿で祈る二人のたとえでも、フアリサイ派の人よりも、「神様、罪びとの私を憐れんでください」と祈った徴税人のほうが、神に義とされたのだと言います(ルカ18・14)。

このようにイエスは人間

の心を見ています。宗教社会的な地位や職業によって、他の人より神に近いといった判断はしていません。逆に、律法学者やフアリサイ派の人々に気をつけよ、彼らは長い衣をまとったり、会堂では上席に座りしているが、このような者たちは厳しい裁きを受けるとイエスは手厳しい(マルコ12・40)。当時の制度や社会層としての大祭司や祭司、律法学者やフアリサイ派(分離派)などは、イエスの言葉や行動に神の現存を感じる事ができませんでした。むしろ貧しい人や罪人といった小さい人たちのほうがまさる心を持ち、イエスに共鳴して受け入れました。イエスもまた小さい人たちに寄り添われました。フアリサイ派の人々の家で、泣きながらイエスの足に香油を塗った「罪深い女」のほうがイエスを深く愛しており、またその信仰ゆえに彼女の罪は赦されているのだ(ルカ7・48)。

ここまで福音書の中のイエスの言葉と行動を見てきましたが、それらはすべて、イエスの最後の十字架架死によって確かなものとされて(保証されて)いると言えます。わたしの血であるあなたの罪を償って、父なる神の前に立てるようにしてあげるから、安心していなさい、と。「ヘブライ人への手紙」で、イエス・キリストこそが大祭司であって、もはや古い祭司制度は不要であり、万人が等しくイエスを通して父なる神と和解し救済されるのだというの、まさにこのことです。放蕩息子や夕方5時からの労働者が赦さ

されたのは、イエスの言葉と行動を見てきた



短歌

国分教会 市来房枝
園児らの「主よ私をお使いください」の歌声聞きて涙滲めり
(カトリック国分幼稚園50周年記念日)

吉野教会 中江均
人類に後100秒ととき印し愛を促す終末時計
年老いた白衣の天使聖歌隊先に召されし友送るミサ

+KABAYAN SEKSYON+

Mapagmahal na Pag-unawa sa mga "Kalagayang may Kahulugan"

Nalalaman ni Papa Francisco na hindi nakakamit ng lahat ang matatayog na hangarin ng Kristiyanong kasal; kaya naman hinihiling niya sa mga Katoliko na magpakita ng "pag-unawa, pakikiramay, at pagtanggap" (b.49).

"Dahil sa pagtingin sa mga bagay-bagay, gamit ang mata ni Kristo, nahihikayat ang Simbahan sa pangangalagang pastoral para sa mga mananampalatayang nagsasama nang hindi kasal o kasal lamang sa sibil, o diborsyado na nagpakasal na uli. Sang-ayon sa banal na pagtuturong ito, may pagmamahal na binibigyang-pansin ng Simbahan silang mga kakulangan: hinahagad ng Simbahan ang biyaya ng pagbabago para sa kanila; hinihikayat niya silang gumawa ng mabuti, na magmahalan at magmalasakit sa isa't isa"(b.78).

"Kung ang isang mag-asawa na hindi kasal sa Simbahan pero mayroon namang katatagan ang pagsasama-at may malalim na pagmamahalan, pananagutan sa mga anak, at kakayahang malampasan ang mga pagsubok-maari itong tingnan bilang isang pagkakataon, hangga't maari na maghatid sa kanila sa pagdiriwang ng sakramento ng Kasal".

Isang kapaki-pakinabang na pamamaraang pastoral ang itinutulak ng Papa: "Habang malinaw na ipinaliliwanag ang turo ng Simbahan, kailangan ding iwasan ng mga pari ang magbigay ng hatol na hindi isinasalang-alang ang masalimuot na mga kalagayan" (b.79)

Katesismo sa Taon ng Parokya (Fr.Dino Orolfo)

したが、それらはすべて、イエスの最後の十字架架死によって確かなものとされて(保証されて)いると言えます。わたしの血であるあなたの罪を償って、父なる神の前に立てるようにしてあげるから、安心していなさい、と。「ヘブライ人への手紙」で、イエス・キリストこそが大祭司であって、もはや古い祭司制度は不要であり、万人が等しくイエスを通して父なる神と和解し救済されるのだというの、まさにこのことです。放蕩息子や夕方5時からの労働者が赦さ

れるのは、贖いの血を流すイエスを通してなのです。以上から、万人は等しく同じ罪人であり、聖も俗もないということ、従って、俗なる一般信徒が救われるには聖なる領域の司祭を設ける必要があるとは、イエスは言ってもいないし、ほのめかしてもいないと言えます。このように「平等主義」の根拠は聖書に示唆されていると思えます。これが問題提起への一つの結論です。

岩島忠彦上智大学名誉教授は、第二バチカン公会議

岩島忠彦 *岩島忠彦「キリストへの教会を問う」参照。

わたしの信仰体験

第3回 「私の家族の秘跡」



それは光芒一閃の始まりでした。2012年3月12日深夜、非情な電話がありました。「広島市民病院ですが、ご家族が緊急入院されました。危険な容態です。詳細は病院で説明しますので、至急広島へ向かって下さい」とのこと。急遽、翌朝の一番の新幹線で広島へ行くことになりました。しかし、大変な状況としか分からず、その夜は一睡もできませんでした。

病院に着き長男の集中治療室に行くとき昏睡状態。脳の前頭葉が真っ白(通常は黒色とか)。「病名は現時点では断定不能とのこと、状況によっては生涯寝たきりということもあります」との説明で驚愕

と落胆のどん底、まさしく落雷を受けたような瞬間でした。失意のうちに2週間の検査入院の準備のため長男の自宅(当時独身)へ向かいました。するとドアを開けた途端、ガス臭い匂いが漂っていて、すぐさま部屋中の窓を開け外気を入れました。ふと脳裏を襲めたのは、「ストロークが原因では」ということでした。そして現役中に習得した酸欠のことを連想しました。

そのことを医師に伝えましたが、「医学的には現状での断定は不可能。検査結果で判断する」と強調されました。私は納得できず「もし一酸化炭素中毒だったら、直ちに処置しないと重大な事になるのでは」と意見しました。しかし、この病院には高圧酸素設備はありませんでした。大学病院にはありませんでした。病室の空はないとのことでした。

それでも諦めきれず、更に強く懇願しました。その結果、呉医療センター(旧呉海軍病院)が受け入れてくれることになり、私は自己責任で搬送しました。呉の医療センターでは、3人の医師が立ち会い、すぐに「酸化炭素中毒に間違いはない。あと1日遅れたら手遅れだった」と言われました。医師から「我々も最善を尽くします。ご家族も希望を持って本人に接して欲ください」と言われました。

昏睡状態でしたが、東洋で最大級の高圧酸素治療室での約半年間の治療やリハビリで順調に回復しました。これはまさに奇跡でした。そしてこれは単なる事故ではなく私の信仰を深め、高めるための試練でした。このことは、私の洗礼に始まる孫までの家族13人の全員の信仰の絆をより確かなものとさせる機会となりました。神に感謝。



立て、行こう！高校生と韓国巡礼④

青少年司牧担当司祭 李秉徳 (ザビエル教会助任)

三日目⑤

助けてくれた人々が、皆家に帰って、私たちも宿所に帰る時間。時はすでに地下鉄の終電時間が近づいていた。宿舎まで1時間程度。地下鉄に乗って運がよかったから席に座れた。緊張が解けたら、そっと居眠りをした。妙な気がして、目を開けてみた。地下鉄を降りて歩いていたら、「九老」という乗換駅を基準に二つの道に分けられている。私たちが乗ったのは「仁川」ではなく「天安」へ向かって行く1号線。「天安」は南に3時間かかる。すでに「九老駅」を過ぎて「天安」に向かい始めていた。

学生たちに地下鉄に乗りながら、私たちは終点なので、降りる駅は気にしなくていいと話していたが、最大の危機が訪れた。とりあえず降りてスマートフォンで検索してみたら、助かった九老駅に戻る地下鉄はまだあった。しかし、問題は九老駅で乗り換えなければならない仁川行

きの地下鉄は終電。隣のプラットホームに移動して乗らなければならなかった。私たちに与えられた時間は2分だけ。2・5階ほどの階段に移動しなければならなかった。急いで走って転べば、大事故につながる状況だった。学生たちに状況を説明した。学生たちは、「神父様、大丈夫です。心配しないでください」と、私を笑顔で安心させた。誰が誰を安心させているのか。ありがたく涙が出てきた。九老駅に近づいた時、一人ひとりに「降りなければならぬ」と伝えて回った。その時、学生たちの顔に安らぎはなく、決意に満ちた顔に変わっていたのを見て驚いた。私には「大丈夫です」と言っていた学生たちの顔ではない。百メートル競走のスタート・ラインにいる選手のように走り出した。私たちが戻ると、助かった九老駅に降りて走り始めた。私は多く

の人の中で階段の一番先に到着した学生たちを見て、また驚いた。反対側のプラットホームに待っている終電にみんな無事乗った。再び笑顔で私を慰めた学生たちを見て、私は3番目に驚いた。教会の中で私の役割は司牧者だ。私は羊を見守り、世話しながら彼らの靈魂を神の国へ導く者である。そのような私がいつも緊張しなければ、神様の聖なる民の靈魂を神の国とは反対に導く。イエス様は「盲人が盲人を導けば穴に落ちる」(ルカ3章39節)とおっしゃった。その言葉がずっと心に残る。その言葉は私の司牧生活で忘れられない言葉になるだろう。宿舎に到着。無事に(?) 3日目も終わりました。神様、ありがとうございます！

4日目① 梧柳洞教会でのミサ
前日無理をしたので、最終日は朝8時にスタート。学生たちがまだ寝ていた時、車を返して家に寄り、母に挨拶をして宿所に戻った。まだ夢の中にいる学生たちを起こしている、「また「目を覚ましていよう」という意味で使われるようになります」と考えられます。では「イエス様は何に注意を払わなければならぬ」と命じられているのか、また「目を覚ましていよう」という意味で使われるようになります」と考えられます。また自分が「人の子の前に立つことができるように」不安です。この不安を解消するために、歴史的にみても人は救われる保証を何かに求めようとしてきました。こうした人間の弱さから、イエス様は「野原での眠り」を意味する

て出発準備が終わった時、仁川教区長のチョン司教様にもう一度会うことができず。チョン司教様は鹿兒島教区の学生の聖地巡礼はいつでも歓迎とおっしゃった。記念写真を撮っていた時、仁川教区の梧柳洞教会の主任神父が訪れた。私たちが一緒にミサを捧げるつもりだった主任神父だ。実は「鹿兒島教区の学生たちが仁川に聖地巡礼に行く」と言った時、仁川教区の多くの神父たちが学生たちとミサと食事をしたが、あちこちから招かれたが、すべて断って梧柳洞教会を選んだ。その理由は、梧柳洞教会の主任神父が「学生たちの姿だけでも梧柳洞教会の信者たちの応援になりそう」と頼んだからだ。平日のミサだったが、梧柳洞教会の信者たちは「普段より多く参加した」と主任神父は言った。

4日目② 鹿兒島へ
梧柳洞教会の車に乗って仁川国際空港に移動して、すべての手続を終えた。飛行機を待ちながら遅い朝食を食べた。そして、まだ重要なことが残っていた。免税店ショッピング。仁川国際空港の免税店には「ライフレイズ」という観光のショッピングのコースがあった。免税店でも一度自由時間。「オーイー」と叫びながら学生たちは、すぐに姿を消した。「前日たくさん買ったのに」と思ったが学生たちは沢山ショッピングして帰ってきた。後で分かったが、学生たちは今回の巡礼のために準備していたのだ。すべての予定が終わって鹿兒島に着。家族のもとに戻る学生たちを見て、私も安心した。今回の聖地巡礼は自分にとっても大切な経験になった。多くのことを感じて、考えることができた。個人的に望むことは、聖地巡礼が続くことだ。少なくとも2〜3年に一回は行けるといいな。教会に多くの学生が来て、その計画が実現することを望む。

今回の聖地巡礼に多くの助けと関心をくださった方々「ありがとうございます」と申し上げたい。誰よりも、一緒に過ごした学生たちに感謝し、神様に賛美と栄光を捧げながら、言葉足りない紀行文を終わりたい。神様ありがとうございます！

福音書の中でイエス様は幾度となく「目を覚ましていなさい」とお命じになられます。日本語の訳からは「意識していなさい」とか「心掛けていなさい」ということを言い表しているように思えます。面白いことに原語で「目を覚ます」と訳される動詞は二種類あります。一つは一般的な意味の動詞ですが、もう一つには新約聖書全体の中で合計4回、福音書の中ではマルコとマタイで1回ずつしか使われていない珍しい動詞があります(マルコ13:33、ル

カ21:36)。そこで、この言葉を通じてイエス様が言わんとしていることを考えてみましょう。

この言葉は「畑」や「野原」を意味する言葉と「眠り」や「睡眠」を意味する言葉の二つを合わせて動詞化したものです。ですから、本来の意味は「野原での眠り」となります。これが転じて「眠らずに警戒して起きて

いる」、また「目を覚ましていよう」という意味で使われるようになります」と考えられます。では「イエス様は何に注意を払わなければならぬ」と命じられているのか、また「目を覚ましていよう」という意味で使われるようになります」と考えられます。また自分が「人の子の前に立つことができるように」不安です。この不安を解消するために、歴史的にみても人は救われる保証を何かに求めようとしてきました。こうした人間の弱さから、イエス様は「野原での眠り」を意味する

「その時」がいつ来るのか分からない、ということに不安です。また自分が「人の子の前に立つことができるように」不安です。この不安を解消するために、歴史的にみても人は救われる保証を何かに求めようとしてきました。こうした人間の弱さから、イエス様は「野原での眠り」を意味する

言葉を使って「目を覚ましていなさい」と語られたと考えられます。自分が救われるために何かをしようとする愚かさ：人間が犯しがちな過ちに警戒しなさい、ということをしてイエス様は語ろうとされていると思われま。救いは神様によるものです。であれば、救われることを目的として善行に努めることよりも、救い主の御心を知ろうとして祈ることが大切なのではないでしょうか。御復活を迎える今がその時かもしれません。

会と催し 4月

- 1日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 2日(木) 中野裕明司教叙階記念(1978年)
- 4日(土) レヒナ神父命日(2015年)
- 5日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 6日(月) 世界青年の日
- 6日(月) 司教評議会・教区本部・14時
- 7日(火) 聖香油ミサ・カテドラル・11時
- 7日(火) コンベンツス・教区本部・13時
- 8日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 9日(木) 聖木曜日(最後の晩さん)
- 10日(金) 聖金曜日(主の受難) (大斎・小斎)
- 14世紀中ごろ、教皇クレメンス6世は、パレスチナ各地の巡礼所とヨーロッパからの巡礼者保護をフランススコ会に委託しました。その後、政情不安定な聖地で苦勞している修道者たちを支えるために行われるようになった献金は、いつのころからか主の受難と死を記念する聖金曜日にささげられるようになりました。そして教皇レオ13世は1887年、カトリック教会のすべての小教区にこの聖地のための献金を命じました。
- 全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられるほか、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などのために使われています。
- 11日(土) 聖土曜日
- 12日(日) 復活の主日
- 15日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 17日(金) 青年会・教区本部・18時30分
- 19日(日) 復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
- 19日(日) レジオ鹿兒島コミチュム・谷山教会・14時
- 20日(月) レンデントール会例会
- 22日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 25日(土) アン神父叙階記念(2006年)
- 25日(土) 聖マルコ福音記者
- 26日(日) マイエル神父命日(1978年)
- 26日(日) 復活節第3主日
- 28日(火) オリブの会・教区本部・14時
- 28日(火) ハンマ神父叙階記念(1963年)
- 29日(水) 橋口啓悟神父叙階記念(1996年)
- 30日(木) 谷村達郎神父命日(2018年)
- 【司教日程】 1日中野アカデミー、4日大口明光学園職員会、6日司教評議会及び教区司教会、7日聖香油ミサ及びコンベンツス、8日中野アカデミー、12日奄美大島地区復活祭、15日中野アカデミー、21〜22日長崎教会管区会議及び災害対応会議(福岡)、24日理事長校長会
- 祈りの意向
【祈禱の使徒会】 世界共通 依存症からの解放
日本の教会 自然災害や原発事故の被災者

ウガンダの旅 2018

ホイマをあとにする ⑬

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、一昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。これは生徒のためにと執筆した「ウガンダの旅2018」の13回目。

8月2日、支援地訪問を終えて早めにホイマのホテルに着。わたしとVさんとパトリックさんと近くのカトリック教会訪問。その小教区は、聖シプリアン小教区と書いてあった。隣接の学校は、聖フランシスコ小学校。病院はわからなかった。庭では聖歌隊が練習中。聖堂は2008年献堂と新しい。小教区には立派な建物と思う。中に入る。300人くらいは入りそう。Vさんが「30分くらいいてもいいですか」と言う。「一応パトリックさんには15分くらい待たせてくれる?と頼んであるけど」と答えた。「せつかくだからロザリオの祈りをしたい」と。さてはロザリオ一環をするのだな。アベ・マリアを50回唱えるから(正確には53回)そのくらい時間がかかる

のだ。「いいでしょう、では一緒に祈りしましょう」とロザリオ一環を始めたのだ。パトリックさんが見えていたかどうかは定かじやない。長いなあとは思われたかも。でもロザリオをしていることがわかれば、ああ30分くらいかかるなあとかわかってくださったに違いない。

ロザリオのあと、さらに堂内の写真を撮った。カトリック教会ではたいい堂内に十字架の道行という、イエスが死刑の宣告を受けてから墓に葬られるまでの歩みを黙想できる絵や彫刻が14場面掲げられている。ヨハネは12番目(イエスが十字架上で息を引き取られる場面)に登場するので、いつもそれを写真に撮る。今回は6番目(ベロニカがイエスに布をささげる)がVさんの洗礼名である。

明らかにうちにホテルに戻る事ができた。ツアーから離れ特別に教会へ連れて行って下さったパトリックさんに、日本からのおみやげ、ロザリオの聖母のカードをお礼に渡す。7時から夕食。このホテルでもう4回目の夕食である。支援地最後の夕食という事で、みんなで一つのテーブルを囲む形でいただいた。感想などを発表し合う。わたしは「教育の



聖シプリアン小教区入口、聖シプリアンって誰?

大切さはわかりますが、子どもたちの素朴さも失われないうちに祈ります」と伝えた。この支援地訪問で一番印象に残っているのは、子どもたちの明るさ、笑顔である。どこにいても子どもたちがたくさんいて、いつも笑顔で手を振ってくれる。日本の子どもたちが失ってしまった表情がここにあると感じた。そして、その子どもたちの表情こそがこれからのウガンダの将来を支えていくに違いないと思つたのである。自分が支援しているナフリラちゃんの将来はどうなるかな。もう来年以降は手紙のやりとりもできなくなるから、どんな道を歩み始めたか、知ることにはできないだろう。夢がかなって、シスターへの道を進むことができるかどうか。

うか。

8月3日、ホイマを離れ、カンパラに戻る。途中でウガンダの観光。また6時間ほどの乗車。パトリックさんの車に乗る。Kさんと一緒になった。トイレ休憩が途中に2回。1回目はWV(ワールド・ビジョン)のキボガ事務所。行きにも寄ったイギリスが支援しているところ。その後、別の車がエンジントラブル。代車の到着を待つ間に、ちょうど止まったところの小学校見学。これも学校の敷地内に教会。でもこの教会は使われていないようだ。かつては教会が運営する学校で、今は学校だけが残つたのだらう。教会の裏に墓地。教会設立にかかわった人の墓のようだ。現地語のようで全く読めず。日本に帰ってから調べた。墓碑銘に「わたしは主の家にとこしえに住む(詩篇23章6節)」とある。

KJPP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 4月号

3月5日から予定されていた「正義と平和協議会全国大会」は新型コロナウイルス感染症対策で中止になりました。事前に配布された会議案内文は次の通り。

「日本カトリック正義と平和協議会は50年を振り返り、具体的ビジョンを探ります。全国会議ではシンポジウム、グループ討議による深めへと進みます。それぞれの場所に戻った時、会議で話された問題について理解の輪をさらに広げ、具体的な行動につなげていくことをこの会議は目指しています。さらにこの会議の目的は『正義と平和の実現のために優先課題を策定

したトイレ。スタンド内に売店があつて、Kさんがクッキイを買ってきた。おみやげにということらしい。わたしも探しに行く。どこで作っているものかわからず怪しいのだけど、購入。ついでに隣にあつたインスタントラーメンも購入。ラーメンは日本に持ち帰ってからまだ食べていない。カンパラ市内に入る前に、進路をエンテベへ。ここは空港のある街だが、今日はエンテベのホテルにて昼食、そしてエンテベの港からビクトリア湖の島へ観光に行くことになつている。その島、ンガンバ島は、ウガンダ政府が定めているチンパンジー保護区で、野生のチンパンジーを見ることができるといふ。でも途中、体調不良にてCさんが離脱。ひとりカンパラのホテルに戻ることにした。Cさん、以前に青年海外協力隊でタンザニアに勤めていたことがあつたらしく、チンパンジーは以前に見たからいいとのこと。

か。誰がその権威を与えたのか」イエスはお答えになつた。「では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威でこのようなことをするのか、あなた方に言おう」(マタイ21・23、24)

このみことばを日本の政治の権威に適用してみよう。人間の権威は、神から来ているものであつて、人はその能力にあつた役割を担っているにすぎません。人間は神への謙遜を忘れてはいけません。政治家が公的権利を誤って行使している現実があります。私たちは公権の乱用を許さない徳の能力を発揮して、福音の掟を守りながら、自己及び国民の権利を擁護することができま。教会の教

えとして「教会はすべての人に奉仕するために、個人並びに家族の基本的権利と共通善の要請を認めるあらゆる政治形態のもとにおいて自分が自由に発展できることを何事にもまして強く望んでいきます」(「現代世界憲章」42)。また聖書の知恵の書(8・7)には「だが正義を愛する人がいるか。知恵こそ働いて得を得させるのだ。すなわち、節制と賢明、正義と勇気の徳を、知恵は教えるのである。人生にはこれらの徳よりも有益なものはない。」パウロは信仰、希望、愛の対神徳についてローマ書(5・1、5)で「わたしたちは、信仰によつて義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによつて神との間に平和を得

ており、このキリストのおかげで今の恵みに信仰によつて導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています」とあります。「鹿児島正義と平和協議会」の分かち合いで身の回りで起きる様々な出来事についてあなたの素晴らしい正義の徳を披露してください。最新情報を持ち寄って楽しい分かち合いを行っていきます。ぜひお越しください。(加世田教会・川口茂 終身助祭)

社会問題の分かち合い

(毎月第三土曜日) 日時: 4月25日(土) 13時~16時

場所: 教区本部 内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他

カトリック通信講座

当講座では、聖書と共にテキストを読み、「解答はがき」の質問に答えながら理解を深めていきます。 ◆聖書入門Ⅰ=四福音書を通して、イエス・キリストが私たちに何を訴えかけているのかを考えながらやさしく解説しています。



◆聖書入門Ⅱ=使徒言行録、手紙類、ヨハネの黙示録に沿って、使徒たちのメッセージ、若い教会の発展と直面した危機について平易に解説しています。主日ミサの第2朗読を深く味わうために。

<受講料> (教材費・税込) 聖書入門Ⅰ…4800円/聖書入門Ⅱ…5300円 <お申込み> 郵便振替用紙にご希望の講座名をご記入の上、下記にお振り込みください。ご入金確認後、教材をお送りいたします。 振替口座番号: 00170-2-84745 加入者名: オリエンズ宗教研究所 <お問い合わせ> オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL 03 (3322) 7601 ※全7講座の詳細はHPをごらんください。